

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

ダンゴムシと命の誕生／川俣町立富田幼稚園（福島県）

子どもたちの身近にいる小さな生き物として、いつの時代も愛され続けているダンゴムシ。皆さんの園では、ダンゴムシを見つけた子どもたち一人一人に、どのような物語が生まれていますか？

今回の保育のヒントでは、入園をお祝いする会で、3歳児が園にいるダンゴムシを紹介されたことから、ダンゴムシに愛着をもち、命の誕生や自分で育てる経験を通して、自然の面白さや不思議さ触れていく実践をご紹介します。



○ ダンゴムシ見つけたよ（3歳児）

● 研究の視点と内容

当園では、子どもの姿から「科学する心」を読み取るときに、感性、主体性の2つの視点を分けて読み取っています。

✦ ダンゴムシ、かわいいな。おもしろいな

5月10日、新入園児を歓迎する「ようこそ会」で、5歳児が「幼稚園にはかわいい虫がいっぱいいるよ」と絵を見せながら教えてくれた。これが、3歳児とダンゴムシの出会いである。

6月5日、Aさん、Bさん、Cさんが、保育室の目の前の庭で、頭を寄せ合って、ダンゴムシをつかまえていた。保育者は、帰りの会で「ダンゴムシみつけたよ」の絵本の読み聞かせをする。



幼稚園の虫を紹介する5歳児



ダンゴムシを発見する3歳児
「いっぱいいるね」「まるくなるよ」

● 視点1＜感性＞

- ・ 自然との出会い・発見
「ダンゴムシのおもしろさ」「小さい」「いっぱいいる」「まるくなる」「かわいい」

● 視点2＜主体性＞

- ・ 異年齢児との関わり
「あこがれ」
- ・ 保育者との関わり
「絵本の読み聞かせ」

✦ ダンゴムシの赤ちゃんがいっぱい生まれたよ

6月11日、ダンゴムシのお母さんのおなかに、たくさんの赤ちゃんを見つけたDさんとEさんは、園長に知らせに行った。

6月19日、ダンゴムシの赤ちゃんが生まれているのを再び見つけたDさんとEさんは、今度は黒い器に入れて園長に見せた。

「すごいなあ。たくさんいるね。よく見つけたね」と園長が写真を撮る。3人は嬉しそうに見ていた。



産まれたばかりのダンゴムシの赤ちゃん
「お母さんのおなかにいるね」「白っぼいね」

● 視点1<感性>

・ 自然との出会い・発見

「お母さんのおなかにいる」「赤ちゃんがいっぱい」
「白っぼい」

● 視点2<主体性>

・ 自然との出会い・発見

「また見つけた」

・ 保育者との関わり

「園長先生にも知らせたい」

✦ ダンゴムシの脱皮発見～半分白くて、半分黒い～

6月21日、再び、ダンゴムシのお母さんのおなかに沢山の赤ちゃんが生まれた。そこで保育者は飼育ケースを用意して、図鑑を添えたコーナーを設置した。

6月26日、ダンゴムシの体が半分白くて半分黒くなったのを見つけた。子どもたちは「本の写真と同じだね」と、3歳児なりに絵本や図鑑と実物を見比べるようになった。

7月～9月、3歳児クラスの子どもたちは、ずっとダンゴムシ探しを続けている。クラスの半数以上の子どもが、牛乳パックのおうちにダンゴムシを入れて、家庭に持ち帰り、観察を楽しんでいる。



友だちと一緒にダンゴムシの本を見る3歳児
「脱皮したのを見つけたよ」

● 視点1<感性>

・ 自然との出会い

「脱皮したのを見つけた」

・ 本や図鑑との出会い

「図鑑と同じ」「半分白くて、半分黒い」「不思議」「脱皮と言うのか！」

● 視点2<主体性>

・ 自然との出会い・発見

「また見つけた」

・ 保護者との関わり

「お家の人にも知らせたい」

✦ 考察

成果

ダンゴムシは3歳児にとって身近で触れやすく、自然のおもしろさや命の尊さに触れるにふさわしい対象であった<感性>。園長に見せたり家に持ち帰ったりしようとする<主体性>は、ダンゴムシが価値あるものだからである。9月現在も子どもたちはダンゴムシとの触れ合いを楽しんでいる。

保育者の思い

3歳児なりに図鑑や本の絵に触れながら見比べていく経験は、やがて<創造性>に繋がるだろうと考えている。言葉には十分表せない姿も見られるが、子どもたちの心もちを感じられる保育者でありたい。